

進和学園「いのちの森づくり友の会」会報（第1号）

<http://www.shinwa-gakuen.or.jp/>

2006年10月にスタートした進和学園の「いのちの森づくり」プロジェクトは、宮脇昭先生（横浜国立大学名誉教授）のご指導のもと、多くの皆様に支えて頂き、お陰様で4年目を迎えています。「どんぐり」や木の実を集めて苗木を育てること、大地に木を植えることは、障害をお持ちの方々は勿論、職員はじめ関係者一同にとって「精神（心）の自立」に繋がる意義ある行為であることを実感しています。

2009年度は、本格的にポット苗の出荷が始まり、1年間で12,000本近くの苗木を出荷することが出来ました。売上げは、進和学園「どんぐりグループ」の皆さんの工賃に還元され、「経済的な自立」にも役立っています。

「いのちの森づくり友の会」は、2008年12月に発足し、2008年度（4か月間）及び2009年度と合わせ、今回、記念すべき会報第1号をお届けする運びとなりました。会員の皆様には、温かいご支援ご指導を賜り、心より感謝申し上げます。これからも、「福祉」「環境」「教育」そして「労働」の連携を目指して、私共一同、力を合わせ「いのちの森づくり」に取り組んで参ります。

今後とも、宜しくお願い申し上げます。

2010年6月吉日

進和学園「いのちの森づくり友の会」事務局

TEL : 0463-58-5267 FAX : 0463-58-2675

■ 進和学園「どんぐりグループ」紹介

2008年度までは、進和学園「しんわやえくぼ」（サンメッセしんわ分場）のメンバーが中心となり、「進和万田ホーム」の仲間達も作業の一部を手伝いました。

①



②



③



- ① 苗木が初めて売れました！ハウスオーナー諸星さんと「しんわやえくぼ」のメンバー
- ② 「秦野千年の杜づくり」（落合八幡神社）に苗木を納品した「しんわやえくぼ」の皆さん
- ③ 「どんぐりハウス」の仕事を手伝った「進和万田ホーム」の仲間達

2009年度より「しんわルネッサンス」に移管され、現在、次のメンバーが作業に励んでいます。

<利用者本人>

川又 淳	小西 高幸
小松 竜一	鈴木 あけみ
曾我 豊美	竹中 美記
久永 小百合	西山 友佳乃
安田 聡	柳 由夫
山本 信行	吉本 忠広

<職員>

遠山 雄志
須藤 求巳

<コンサルティング>

大上 圭一
(エスペックミック㈱)

<サポーター>

諸星 孝恵（ハウスオーナー）
中野 弘美（諸星さんの妹さん）
妹尾 祐子（研進一就業支援団体）
田村 薫（研進一同上）



現在の「どんぐりグループ」メンバー
個性あふれるメンバーが力を合わせて
頑張っています！



小林麻央さん（日本テレビ）
の取材を受ける「どんぐり隊長」

自分が「いのちの森づくり」の仕事を本格的に始めたのは 2009 年の年明けからでした。それまではホンダさんの仕事を行っており、「いのちの森づくり」の仕事を行うなんて思ってもいないことでした。森づくりの仕事を始めた時は、ビニールハウスにある 25 種類位ある木の種類も殆ど分かりませんでしたが、今では樹種の特徴が分かるようになり、ビニールハウスのどこに何があるかということも分かるようになりました。

横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生のお話しにもありますが、便利な現代社会から過去のアナログ的な生活に戻ることは不可能だと思います。乾燥重量の約 50%が炭素である木を植えていくことが地球の環境問題を解決する有力な方策になると思われます。

進和学園で育てた苗が、より多くの植樹祭等に利用されると共に、「いのちの森づくり」事業がより発展することを望んでいます。

しんわルネッサンス
どんぐり隊長 遠山 雄志

私は、「どんぐりハウス」でお手伝いをさせて頂いております諸星です。私の父が以前、きゅうりの栽培をしていたビニールハウスを進和学園さんに再利用して頂いたのがご縁で、苗の水遣りやハウスの開け閉めなどをさせて頂いています。

4 年目となる今年、ハウスの中は、当初に比べ様変わりするほど苗の本数も増え、その眺めは壮観です。夏になるとハウス内の気温も上がり、作業も大変になりますが、苗が日々成長する様子に遣り甲斐を感じております。

また、進和学園さんとの触れ合いの時間も私の楽しみの一つです。進和学園の益々の発展を期待しております。これからも宜しくお願い致します。

サポーター（ハウスオーナー）
諸星 孝恵



写真中央：諸星さん
お隣：妹の中野弘美さん

「いのちの森づくり友の会」を応援します！



写真右：大上さん/

お隣：奥様の千穂さん

千穂さんも以前エスペックミック社にお勤めになり、私達のプロジェクトをご指導頂きました。

（「しんわやえくぼ」にて）

進和学園様と弊社との出会いは「しんわルネッサンス」竣工時の植樹祭がきっかけでした。そこから進和学園様がポット苗づくりを始めるにあたり、弊社が技術的支援をさせて頂く事になりました。

私は進和学園様の取り組みを知った時、利用者の方たちの個性を生かし、支援するその精神に感銘を受けました。「森づくりは人づくり」と言いますが、進和学園様は既に人づくりにおいて先進的に取り組んでおられるのだと感じました。森づくり、ポット苗づくりが、利用者の方々のさらなる前進へのチャンスとなる事を願っております。

進和学園様と私（弊社）が森づくりを通じて出会った様に、利用者の方々にも多くの人との出会いがあるのではないのでしょうか。森づくりを通して、より多くの人々と手を取り合い、苗を育て、木を植えていきましょう。

コンサルティング
エスペックミック株式会社 大上 圭一

■ 植樹活動への参加・「苗」の受注実績

進和学園では、植樹祭・植樹イベントに参加していますが、主なものをご紹介します。

日 程	植樹祭・植樹場所	植樹本数	進和学園の活動・「苗」受注
2006.10.1	高座の杜植樹祭（海老名市）	7,840 本	利用者・職員 26 名参加
2007.6.3	秦野千年の杜植樹祭 （出雲大社相模分祀）	12,000 本	利用者・職員 14 名参加
2007.11.11	横浜ゴム「YOKOHAMA 千年の杜」植樹祭	27,000 本	利用者・職員 50 名参加
2008.4.29	落合八幡神社 千年の杜づくり植樹祭（秦野）	6,000 本	利用者・職員 16 名参加 タブノキ 120 本受注
2009.4.29	秦野千年の杜・いのちの森づくり植樹祭 （国立神奈川病院）	8,000 本	利用者・職員 27 名参加 6 種類 1,571 本受注 他に「友の会」より 400 本提供
2009.5.6	湘南国際村植樹祭 第 1 回 レナフォ植樹祭	3,000 本	利用者・職員 9 名参加 7 種類 791 本受注
2009.6.7	進和万田ホーム植樹祭	3,440 本	学園関係者多数参加 学園栽培の苗 13 種類・2,205 本利用
2009.11.4	平塚市北豊田防災備蓄基地 外構植栽	492 本	利用者・家族・職員 30 名参加 「友の会」よりスミチ 492 本提供
2009.12.7	高浜台交差点(国道 134 号線) 沿道植樹祭	1,812 本	利用者・家族・職員 40 名参加 「友の会」より 6 種類 1,812 本提供
2010.3.14	「時ノ寿の森」植樹祭 （静岡県掛川市）	3,000 本	利用者・職員 5 名参加 4 種類 950 本受注



2007 年 6 月 秦野千年の杜植樹祭（出雲大社相模分祀）



「進友クラブ」の皆様と（どんぐりハウス）

2008 年 5 月 ポット苗づくり



松沢成文神奈川県知事・レナフォ高野理事長さんと



2009 年 6 月「進和万田ホーム」植樹祭

■ 進和学園のポット苗ご購入者様に感謝！

私達が栽培したポット苗は、多くの皆様によって色々な場所に植えて頂いています。100本以上をお買い上げ頂いた企業・団体様は、次の通りです。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

(2010年3月末まで：五十音順に掲載)

2,000本以上	エスペックミック(株)様 毎日新聞社 水と緑の地球環境本部 様
500本以上	NPO法人 森びとプロジェクト委員会 様
200本以上	神奈川県建築士会中支部 様 (株) ジャパンニューアルファ 様 NPO法人 地球の緑を育てる会 様 時ノ寿の森クラブ 様 本田技研工業(株) 様
100本以上	(財) かながわトラストみどり財団 様 (神奈川県「成長の森事業」)



神奈川県「成長の森事業」



HONDA 小川新工場
苗木を無事お届け

本田技研工業(株)様には、部品の仕事を継続してご発注頂き大変お世話になっています。
2009年4月、ホンダさんの小川新工場(埼玉県)が稼働しました。工場の植栽の一部に進和学園の苗木をご利用頂きました。



時ノ寿の森(静岡県掛川市)へ納品

■ 「いのちの森づくり友の会」加入状況 (収支報告：P.12をご参照下さい)

個人会員	2008年度 62件	525,940円
	2009年度 58件	374,697円
団体会員	2008年度 9件	420,000円
	2009年度 8件	1,190,000円
その他	宮脇先生手すきハガキ等売上げ収入	14,401円
合計	2010年3月末までの累計	2,525,038円

本会がスタートしてから1年4か月、上記の通り個人・団体会員の皆様にご加入頂いています。
会費合計は、250万円を超え「いのちの森づくり」のための基金として植樹活動を通じた「環境」への貢献及び進和学園「どんぐりグループ」メンバーの工賃に還元される等、有効に活用させて頂いています。

<湘南ホームジャーナル> | 2010年(平成22年)4月9日(金)

株式会社サンライフ(比企武社長は3月31日、社会福祉法人進和学園とその関連企業で障害者就労支援を行う株式会社研進が推進する「いのちの森プロジェクト」の植樹基金として100万円を寄付した。
同プロジェクトは、どんぐりの実から植樹用のポット苗を栽培し販売することと結束の意思を伝えた。

いのちの森づくりを支援

(株)サンライフが

進和学園に寄付

株式会社 サンライフ 社会福祉法人 進和学園 株式会社 研進

「いのちの森づくり」プロジェクト 寄付 目録贈呈式

地元企業の(株)サン・ライフ様は、私達の「いのちの森づくり」プロジェクトにご賛同頂き、団体会員として「友の会」にご加入の上、100万円をご寄付下さいました。私達にとって大きな励みになっています。

■ 「いのちの森づくり友の会」基金の活用実績

会員の皆様から頂いた会費は、進和学園「いのちの森づくり友の会」基金に寄付され、以下の植樹事業における苗木代金及び植樹作業費用に充当の上、進和学園「どんぐりグループ」で働くメンバーの工賃に還元させて頂きました。（P. 12の収支報告を合わせご覧下さい）

植 樹 事 案 (2010年3月末現在)	金 額
(1) 「千年の杜・いのちの森づくり植樹祭」における苗木提供 (世話人：出雲大社相模分祀様) ・日程：2009年4月29日／5月8日 ・場所：国立神奈川病院（神奈川県秦野市落合） ・樹種・本数：ヤマモミジ300本、ネズミモチ100本 ・作業：配送	168,000円
(2) 神奈川県管理施設・防災備蓄基地植栽における苗木提供 (神奈川県平塚土木事務所様) ・日程：2009年11月4日 ・場所：神奈川県防災備蓄基地（神奈川県平塚市北豊田） ・樹種・本数：ネズミモチ 492本 ・作業：配送・植樹・マルチング	221,400円
(3) 国道134号線高浜台交差点沿道の植樹における苗木提供 (神奈川県平塚土木事務所様) ・日程：2009年12月7日 ・場所：平塚市高浜台交差点付近国道134号線沿道 ・樹種・本数：高中低木6種類 1,812本 ・作業：配送・植樹・マルチング	815,400円
合 計	1,204,800円

「いのちの森づくり友の会」基金を活用して、進和学園の苗木が色々な所に植えられています！



国立神奈川病院（秦野）



神奈川県防災備蓄基地（平塚市北豊田）



国道134号線・高浜台交差点付近沿道



高浜台沿道 1,812本植樹

行政のご支援にご尽力頂いた県議会議員の赤井かずのり先生も駆け付けて下さいました。

■ ポット苗の出荷実績 ～ 進和学園の苗木 11,986 本が植えられました！ ～
(2010年3月末累計)

	樹 種	本 数		樹 種	本 数
1	シラカシ	2, 1 1 9	7	アカガシ	7 1 6
2	ネズミモチ	2, 0 6 8	8	ヒメユズリハ	6 9 7
3	アラカシ	1, 7 2 6	9	タブノキ	4 5 6
4	シャリンバイ	8 6 5	10	サザンカ	2 8 8
5	スダジイ	7 9 5	／	その他	1, 4 8 4
6	モミジ	7 7 2	／	合 計	1 1, 9 8 6

進和万田ホーム植樹祭／日本テレビで生放送されました！
～ 小林麻央さんと一緒に楽しく作業 ～

2009年6月7日、「進和万田ホーム」の建築工事が完了し、植樹祭が行われました。今回も、宮脇昭先生（横浜国立大学名誉教授）にご指導を頂き、地域の皆様やボランティアの方々と力を合わせ、52種類・3,440本の苗木を植えました。約2,200本は、私達自らが育てた苗木で感慨もひとしおです。建替以前からこの敷地内にあったスダジイの母樹から採集した「どんぐり」の苗も含まれています。当日は、日本テレビ（4チャンネル）の特別番組「Touch! eco 2009 いま、私達にできること」で生放送され、村尾信尚さん、小林麻央さんも参加して下さい、華やいだ雰囲気の中で、大いに盛り上がりました。番組では、事前に小林麻央さんが学園「どんぐりハウス」に来訪され、私達とご一緒に「どんぐり」のポット苗づくりを経験して頂いた時の模様も紹介されました。



小林 麻央 さんと



進和万田ホーム植樹祭



「じんわルネッサンス」の森

◎ 日揮社会福祉財団様の助成

財団法人 日揮社会福祉財団様は、神奈川県における障害者及び高齢者等に対する社会福祉団体・ボランティア組織への支援を実践されていますが、2009年度、私達の「いのちの森づくり」プロジェクトに関して助成を頂きました。

1年間に作成予定のポット苗約20,000個に必要な資材の内、「土」と「ポット」の調達資金の一部として、30万円を助成賜りました。どうも有難うございました。



日揮社会福祉財団様事務所にて



来訪された篠崎事務局長様と森田様と共に



■ いのちの森づくりグッズ ～ 売り上げの一部がいのちの森づくり友の会に寄付されます ～

仲の良いものだけを
集めてもダメ
まぜる、まぜる、まぜるんです。

生きていることは
天文学的な奇跡

絶対にあきらめない。

愛する人の為に
今残せるものは緑なのです。

人間本気になれば、
100%は無理かもしれない
が、多少時間差があっても
97～98%は必ず思いが遂げ
られる。もし、うまく行か
ないときは、よく考えて下
さい。手抜きしているか、
油断しているかです。



宮脇昭先生の「お言葉手すきハガキ」
お言葉5種・イラスト3種
1枚120円 ・ 8枚セット900円
絶賛発売中！！

*世界の宮脇昭先生キャラクターグッズは、
「工房どんぐりすと」と研進&進和学園のオリジナル製品です。

木を植えよう！手ぬぐい
近日発売！！



← 牛乳パックとお茶がらから「サンメッセしんわ」
の「紙すき班」が作っています！

■ 「いのちの森づくり」の輪・和・ワッ！

宮脇昭の発する言葉に引っかからなければ、そして影響され木を植えなければ出会えなかったであろう人たちがいます。まじえる会の面々はもとより、進和学園の皆さんがまさにそう、私の大切な植樹仲間たち。宮脇先生は植樹だけでなく、縁結びの神様でもあるのです。麦わら帽子をかぶった神様に感謝！。

どんぐりてぬぐい&宮脇先生の絵はがきのデザインでおなじみの「どんぐりすと」。兵庫と栃木生まれの彼女と彼も神様が結びつけた二人。宮脇引力に驚嘆みにされた二人は足尾の地で出会い、共に木を植え、絆を深めてついには一緒になってしまいました。結婚式より、植樹祭をしなよという悪魔（私です）の囁きに耳を貸した二人は今日（2010年5月14日）、親戚の土地に記念の木々を植えます（とりあえずは百本ほど。最終的には九九九本！）。もちろん私も参加、混植・密植の宮脇方式、使うは進和さんのポット苗。二人の幸せを願い、丁寧に大切に植えて来まーす。

< 安西 裕 > (まじえる会)

初めて「どんぐりハウス」を訪れたのは、2、3年前のことだっただろうか。シラカシやアラカシ、タブノキやスダジイなどのポット苗が広いビニールハウスに所狭しと並んでいた。進和学園の皆さんが愛情を込めて育てているのが一目でわかり、しみじみ嬉しくなったことを昨日のように思い出すことができる。

その時目にした苗木たちは立派に成長し、今や各地の植樹祭にどんどん「嫁入り」している。今年ではすでに掛川市や湘南国際村、そして私の地元である豊島区の植樹祭へも「嫁いで」行った。どれも自分が参加しているから、心底嬉しい。小さなどんぐりから育った苗木たちがあちこちの土地に根付き、やがて大きく枝を広げる日がやって来る。そう遠くはないその日のことを考えると、自然と笑みがこぼれる。

進和学園から世界へ！植樹へのこの素晴らしい取り組みがずっと続くことを願いつつ、私も微力ながらお手伝いし、応援して行きたいと強く思っている。

< 浦田 未央 > (まじえる会)



御結婚おめでとうございます
進和学園 研進 一同



まじえる会
まじえる会
まじえる会



「森前式（しんぜんしき）」結婚式を行いました

宮脇昭先生の講義がキッカケで出逢ったふたり。このたび神前式ならぬ「森」前式と称して、両家家族が集まって結婚記念の小さな植樹祭を行いました。

自分達でベランダで育てた苗を少しと、仲間からの寄贈や進和学園さんの育てた豊富な種類の苗のおかげで、土地の主木シラカシを中心に 20 種類約 100 本の苗が集まりました。

当日は両家家族と親戚、まじえる会の頼もしい助っ人総勢 11 名が集合。両親や親戚も夢中になって植えてくれました。初めて植樹を体験した両親も「これが森になるなんて信じられない。長生きして 10 年後また見に来たい」と言ってくれたのがとても嬉しかったです。夫婦関係も「厳しい条件に耐えて長もち」して（！？）若い森の成長を家族で地域で見守っていきたいと思います。

< 冬木 麻依子 > (工房どんぐりすと：お隣はご主人の透さん)

＜ 田村 薫 ＞ （サポーター／研 進）

どんぐり班の皆さんと一緒にポット苗づくりを始めてから1年9ヶ月が経ちました。「どんぐりハウス」「まじえるハウス」と名付けられた2棟のビニールハウスで和気あいあいとポット苗づくりをし、育てています。どんぐりから苗木に育つまでには、水遣り、雑草取り、肥料やり、太陽の光が均等に当たるための並び換えをします。その他に配置換え、遮光幕等・・・やるべきことは沢山ありますが、基本的にはこの4つの作業と何よりも苗木に対する皆の愛情で元気に育っています。去年の夏、クヌギ、コナラがスス病になり、黒くなった葉を1枚1枚拭いて汚れを落としました。毎日、夏の暑さと戦いながら、皆が根気強く頑張ってくれたおかげで被害も少なく、傷んだ葉もすっかり元の緑色に戻りました。



写真右端：田村さん

4月から人数も増えて新たなどんぐり班が誕生し、活動しています。「いのちの森づくり～進和学園から世界へ～」という志と共に、ポット苗づくりを通じて人とのつながり、社会とのつながりを築き、どんぐり班がこれからも成長していくことを楽しみにしています。



＜ ラムの会 ＞ （団体会員）

「ラムの会」の女性7名を紹介します。（年齢順？記載）

ミカ：今年3月に誕生したミカ（実花）でチュ！花が咲いて実がなって・・・木になって・・・「ラムの会」に入る運命だったみたいなのでチュ！ムニャムニャ・・・。

ラム：ワタシ、ダックスフント（メスのワンちゃん）のラムです。年は三つ。私を可愛がるためにできた会なのに、この頃、みんなラムじゃなくて「シイ・タブ・カシ」なんて叫ぶので困っています！何とかしてくれ・・・ワン！

ノリコ：「しんわルネッサンス」植樹祭や進和学園のポット苗作り

イベントに何回も参加。そのことをボランティアとして書いたら、志望大学の学校推薦に合格してしまいました？なんちゃって！花の女子大生になれたのも進和学園さんのお陰です。

マリ：フィアンセと進和学園の「じゃがいも堀り」イベントに参加。安くて楽しくて言うことなし。今年7月結婚しまーす！ルンルン！「じゃがいも」も美味しかったです！

ミホ：3月に無事に実花（ミカ）を出産しました。ラムの会で赤ちゃん誕生記念植樹をしてくれるそうです。勿論、苗木は進和さんをお願いします。

リサ：湘南国際村での進和学園模擬店をお手伝い。何とペ・ヨンジュンさんにお会いし一緒に写真を撮ってしまいました。（レストラン「オーク」（桧）へ是非行ってみて下さい？）

ユミコ：ラムの会の会長です。「しんわルネッサンス」植樹祭で、宮脇先生に握手されて以来、進和さんのイベントの常連です！単身赴任の主人もポット苗づくりを体験しリフレッシュ！男子禁制の「ラムの会」に内緒で入りたいそうです。

ということで、進和学園さんと仲良くすると素適なことに沢山出会えます。これからも宜しくお願いします。



ラムの会



2006年4月（植樹祭）



2007年10月（1年半後）



2010年5月（4年後）

「しんわルネッサンスの森」 ～ こんなに大きくなりました！ ～

< 新川 眞 > (国際生態学センター)

「いのちの森づくり」に乾杯！！

社会福祉法人が森づくり？！私が始めて進和学園の取り組みを聞いた時、頭に浮かんだ？！でした。その後、施設を見学させて頂いて驚いたことに、自動車部品の製造はもとより、造園企業の甫場とまちがえるほど立派なポット苗の育苗場があり、ドングリから発芽させた10種類、数万鉢の小さな苗が育っているではありませんか。

『これ何処に植えるの』・『実はそれが問題で』。聞けば、育てた苗の販路が無いと作業賃金にも響くとのこと。常々私はその国の本当の力は社会福祉制度の充実度にあると考えていました。近年福祉予算は削られる一方です。しかし私の師匠である宮脇先生は『金が無いなら智慧を出せ、今、生きていることの幸せを見つけることが大切だ、小さな苗だっていのちをかけている』と言います。智慧を思いきり出して、森づくりを実践されている皆様に大きなエールを送りたいと思います。

今では湘南国際村「めぐりの森づくり」の仲間であり、JICA研修で来日するアジア・アフリカからの研修生が学ぶ場にもなっています。この「いのちの森づくり」の取り組みが、地元平塚から日本はもとより、世界に発信できるよう期待しています。

神奈川新聞 (2009年11月14日)

届け、森林再生の心技

平塚市の「進和学園」



JICAの委託を受けたニールハフで育成している国際生態学センター(横浜)の横浜国立大学の宮脇昭市西氏が、先駆的な苗づくりに挑戦している進和学園に協力を要請した。同学園は、2006年春から、施設の知的障害者らが拾ったアラカシやスタジイなどのドングリを大型ビト苗を栽培し、植樹祭など

アジア研修生が木々の成長視察

森林再生や町の緑化を目指して植樹用のポット苗づくりを行う平塚市の社会福祉法人「進和学園」(同市万田)の活動を学ぼうと、アジアやアフリカ計7カ国の専門家ら12人が13日、同学園を訪れた。国際協力機構(JICA)の事業の一環で、来日した研修生たちは興味深そうに森づくりの理念やノウハウに耳を傾けていた。(牧野 昌智)

6月に植樹した苗の様子を視察するJICAの研修生
平塚市万田

この日は、同学園が取り組む「いのちの森プロジェクト」の説明を受け、実際に苗を育てる「めぐりハウス」や植樹した後の木々の成長の様子などを視察して回った。フィリピンの環境プランナーのクリスさんは「施設で苗を育てる緑化に貢献するだけでなく、障害者の収入にもつながっているのが素晴らしい」と話していた。同学園をサポートする「研進」の出発点社長は「宮脇理論の森づくりがアジアやアフリカの荒地にも広がればうれしい」と期待していた。

のイベントに販売するなど森の再生に貢献している。JICAの研修生は各国で森林や水資源を専門とする行政や研究者で、県内の環境保護活動の現場を約1カ月半かけて訪問している。

< 小松しず子 > (進和会～進和学園利用者保護者会～)

私の好きな絵本のひとつに、シェル・シルヴァンスタインの「おおきな木」があります。原題は「与える木」。その題名でおわかりのように、与え続ける木と欲しがる人間の子供の話です。大きなりんごの木のもとに、毎日のように男の子はやって来ます。木によじ登り、枝にぶら下がり、りんごを食べる。遊び疲れると、木陰で昼寝。やがて男の子は成長し木を忘れていきます。たまにやって来ては、お金を欲しがります。木にはどうしてやることもできません。りんごを売りお金をすることを木は提案します。そうして欲求はどんどんエスカレートしていき、木は枝を与え、幹を与えていきます。そして一箇の切株となってしまった。木のところへ男の子はやってきます。老人となって、そしてその切株に静かに腰をおろして物語は終わります。

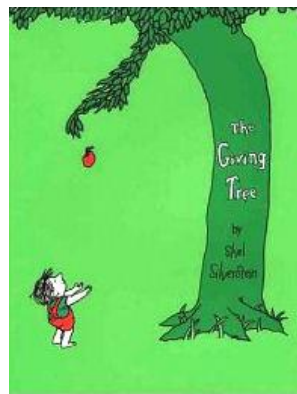
私はこの絵本を読むたびに涙があふれてしまいます。かわいそうだから？いいえ、りんごの木が自ら男の子に自分の幼い頃と重ねているから。

私の故郷沖縄では、木をむやみに切ってしまうと、木の妖精(キジムナー)の祟りにあうという言い伝えがあり、父親が木を切った夜うなされて「キジムナーにとりつかれて金縛りにあった」と真剣な面持ちで言ったのを今でも覚えています。私の家の庭には、家を包み込むように大きなガジュマルの木がありました。毎朝落ち葉を掃いてから学校に行くのが日課でした。木の幹に砦を作り近所の子と遊ぶガジュマルは、私の親であり友でした。

神奈川に住んで30年。沖縄に帰るたびにガジュマルの木はなくなっていきました。折から沖縄ブーム他県からの移住者も多く、サトウキビ畑やガジュマルは切られ、どんどん住宅へ変わっていきます。時代とはいえ寂しい限りです。

今、私が住んでいるのは秦野の名古木という所です。大山を背に246号線を見下ろす形で家があります。9年住んでいますが、四季折々の山の木々達は見飽きる事はありません。そして昨年、自治会の方々と息子と一緒に参加した神奈川病院の植樹した木々達も我が家から見る事ができます。

木によっては、100年、400年と成長していきます。我々人間は長生きしても100年。これから育っていく子供たちのためにも「いのちの森づくり」の運動に参加していきたいと思います。



「おおきな木」

「森づくり」は「人づくり」

～ 教育・啓蒙への取り組み ～

■ セミナー・講演会



2008年2月 市民環境フォーラム
(国際生態学センター・毎日新聞主催)
進和学園「いのちの森づくり」発表
パネル討論参加
＜パシフィコ横浜国際会議場＞



2008年7月
森と生きるキャンパスフォーラム
(NPO 森びとプロジェクト委員会主催)
進和学園「いのちの森づくり」発表
＜横浜国立大学＞



2010年2月
環境活動講演
(ひらつか環境ファンクラブ主催)
進和学園「いのちの森づくり」発表
＜平塚市勤労会館＞

■ 研修・授業



2008年7月
平塚市立土屋小学校6年生
理科の時間：ポット苗づくり体験授業
(進和職業センター)



2009年11月
JICA研修
アジア・アフリカ12カ国の
研修生の皆様に、進和学園の
取り組みをご視察頂きました。
(しんわネットサンス)



■ 展示活動



苗木の見本やパネル展示により私達の活動を紹介。

2008・2009年度 「いのちの森づくり友の会」 基金収支報告 (2008年12月1日～2010年3月31日)

I. 収 入

科 目	金 額	備 考
個人会員収入	900,637円	2008年度 62件: 525,940円 2009年度 58件: 374,697円
団体会員収入	1,610,000円	2008年度 9件: 420,000円 2009年度 8件: 1,190,000円
宮脇先生ハガキ 売上げ友の会収入	14,330円	30円/1枚×341枚=10,230円 180円/セット×16セット=2,880円 寄付金 1,220円
利息収入	71円	普通預金利息
収入合計	2,525,038円	

II. 支 出

科 目	金 額	備 考
ポット苗購入・ 作業等への助成 (進和学園作業 会計への充当)	1,204,800円	① 2009年4月29日・5月8日 「千年の杜・いのちの森づくり植樹祭」(秦野市) (国立神奈川病院/世話人: 出雲大社相模分祀) 苗木代 420円×400本=168,000円 ② 2009年11月4日 神奈川県管理施設・防災備蓄基地植栽(平塚市北豊田) (神奈川県平塚土木事務所) (苗木代 420円+植付代 30円)×492本=221,400円 ③ 2009年12月7日 国道134号線高浜台沿道整備工事に伴う植樹 (神奈川県平塚土木事務所) (苗木代 420円+植付代 30円)×1,812本=815,400円
支出合計	1,204,800円	

III. 残 高

次年度繰越金	1,320,238円	
--------	------------	--

< 会報発行に寄せて >

相棒の須藤亮君と湘南平でタブノキの可愛い芽株を20本採集した時の感激、沢山拾ったドングリが潜在自然植生(その土地本来の木)から外れるマテバシイだと知って落胆したことを昨日のように覚えています。それまでは、タブノキという木の名前もドングリの芽や根っ子がどのように出るのかさえ知りませんでした。

あれから3年半、試行錯誤で「いのちの森づくり」に取り組んで来ました。宮脇昭先生の「森づくり」は、自然や環境、防災にも優れた森林再生の手法ですが、同時に「人づくり」にも繋がることに感銘を受けました。個性と多様性の尊重、競争と共存、生命の大切さ、生きることの意義、人間社会の在るべき姿、人生如何に生きるべきか・・・等を広く世に問うものであり、その理念や哲学にすっかり魅了されました。

進和学園は、障害というハンデを乗り越えて「働くよろこび」「役立つよろこび」を皆で分かち合ってきた。財政難に伴う福祉予算の制約もあり、益々厳しさは増すでしょうが、「いのちの森づくり」が、「福祉」「環境」「教育」そして「労働」の連携を通じて新たな価値を生み出し、そこに集う仲間達の精神的な支柱となると共に、ささやかながらも経済的な自立支援に繋がることを信じています。

記念すべき会報第1号ということで、昂る気持ちを抑えつつこのような形に纏めてみました。お忙しい中、最適な文章やコメントを寄せて頂いた方々に心から感謝申し上げます。
(出縄 貴史/研進)

進和学園「いのちの森づくり友の会」会報(第1号)
発行: 進和学園「いのちの森づくり友の会」事務局
編集: (株) 研進(就業支援団体): 石井 輝美
2010年6月吉日